

武豊町公共施設再編計画

〈概要版〉

令和5年3月 武豊町

1. はじめに

計画の目的

武豊町では、高度経済成長期において集中的に公共施設を整備してきました。現在では、これらの施設の老朽化が進み、今後、次々と大規模改修や建替えといった施設の更新時期を迎えることとなります。

また、今後、生産年齢人口は減少し、人口構成の転換に伴う町民ニーズの変化、町税歳入の動向に対応して、施設の安全・安心を確保しながら、維持・更新に係る経費の軽減・平準化、適正な規模・総量や配置のあり方を検討していく必要があります。

このような状況に対応するため、コスト削減とサービス水準の維持を目指した公共施設の再編を推進するため、再編についての基本的な考え方と方針を示した「武豊町公共施設再編計画」を策定しました。

計画の期間

本計画は、上位計画である「武豊町公共施設等総合管理計画」に合わせ、令和43年度までを見据えた37年間を計画期間とします。

武豊町公共施設等総合管理計画
公共施設等の管理に関する基本的な考え方



武豊町公共施設再編計画
公共施設全体の規模等の再編に係る計画

計画の対象施設

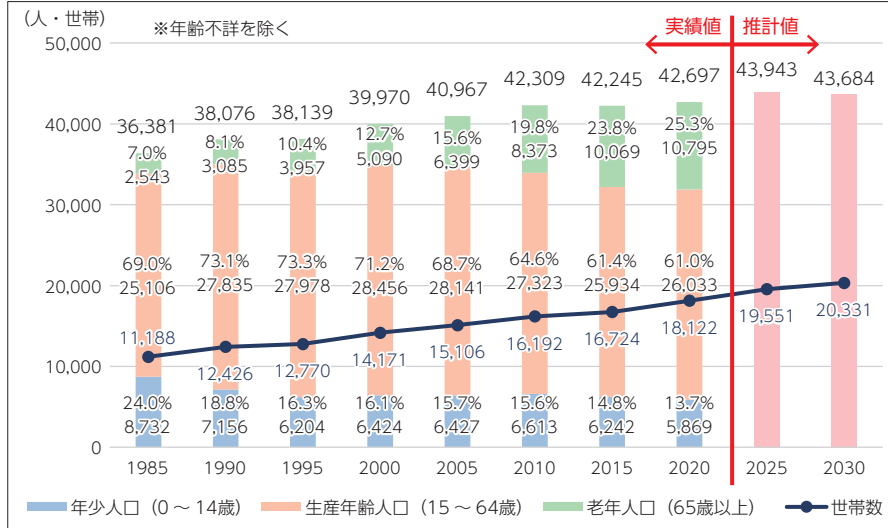
本計画の対象施設は、令和4年度時点で本町が保有する67施設のうち、資源回収エコステーション等の環境系施設や駐車場・駐輪場等の都市基盤系施設及び一般事務組合施設等を除いた以下の53施設とします。

施設分類	施設数	主な施設
町民文化系施設	7	砂川会館、図書館、町民会館、歴史民俗資料館、中央公民館、地域交流センター、味の蔵たけとよ
学校系施設	6	小学校、中学校
その他教育系施設	1	学校給食センター
子育て支援施設	18	保育園、児童クラブ、児童館、南部子育て支援センター
保健福祉系施設	7	思いやりセンター、保健センター、デイサービスセンター砂川、高齢者生きがいセンター、多賀授産所、老人憩の家
スポーツ系施設	4	総合体育館、運動公園、運動公園第2グラウンド、屋内温水プール
行政系施設	6	役場、富貴支所、分団詰所
住宅系施設	4	六貫山町営住宅

2. 公共施設の現状と課題

①人口・世帯数

今後、人口の減少や年齢構成の転換が予測されています。



人口

2024年をピークに減少に転じる。

年齢構成

(65歳以上の割合)

1985年 7%

↓

2020年 25.3%

(出典)

実績値：国勢調査(各年10月1日現在)

推計値：第6次武豊町総合計画

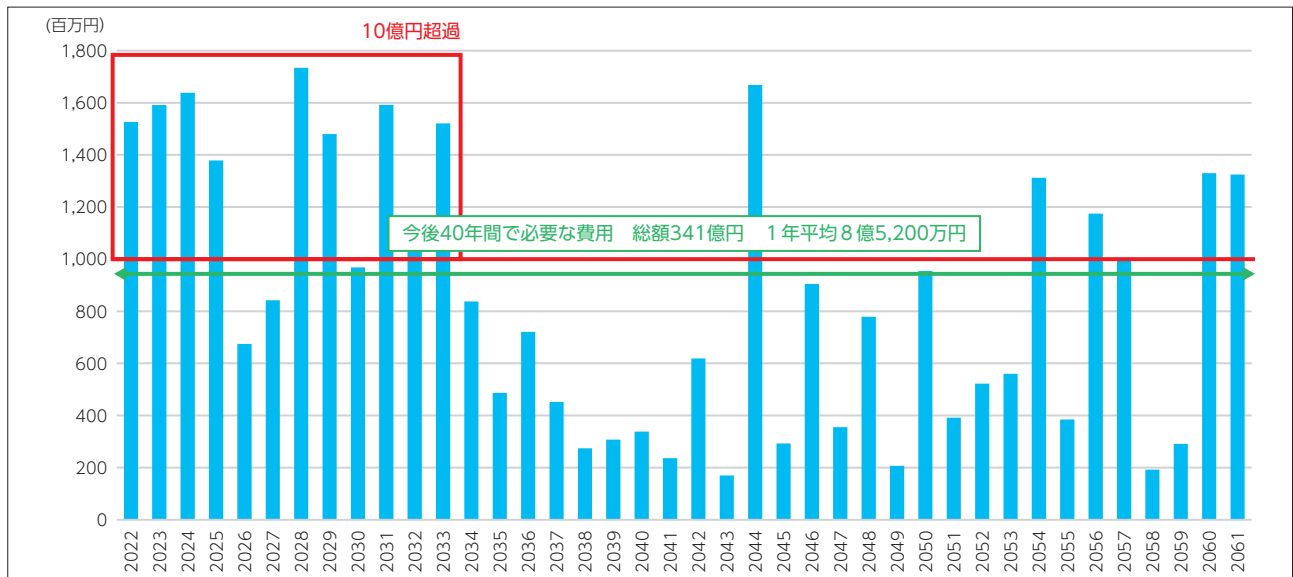
(2021年3月策定)

ここが課題！

- ▶ 公共施設の利用数が減少
- ▶ 公共施設に求める利用ニーズの変化
- ▶ 人口減少の中で大幅な税収を見込むことができない状況

②財政(公共施設等の経費の見通し)

今後10年間に更新や建替えにかかる費用が集中しています。



(出典) 武豊町公共施設等総合管理計画 (2022年3月改訂)

ここが課題！

- ▶ 直近の公共施設に必要な経費負担が増加

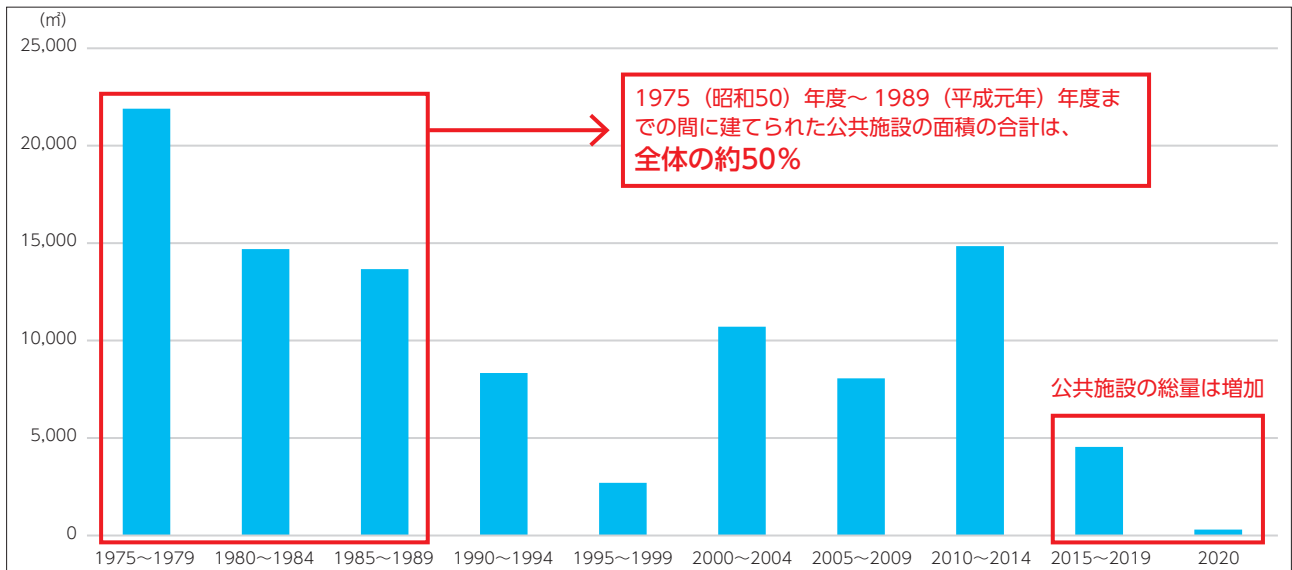
古い建物が増えているね。



人口が減っているのに
ますます負担が増えていくね。

③公共施設の築年数

多くの施設の老朽化が進んでいます。



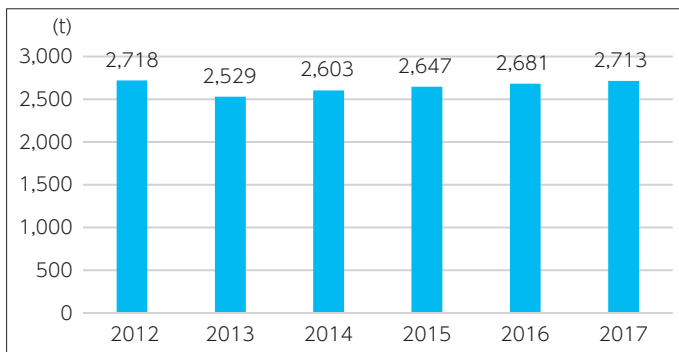
(出典) 武豊町公共施設等総合管理計画 (2022年3月改訂)

- ☑ 昭和 40、50 年代の一定期間に集中的に整備
- ☑ 近年、屋内温水プール等を新たに整備
- ▶ 老朽化した建物が増えることによる公共サービス水準の低下
- ▶ 近年の公共施設の新規整備に伴い、施設の総量は増加

ここが
課題！

④環境保全

公共施設（一部除く）の温室効果ガスの総排出量は徐々に増加しています。



(出典) 第4次武豊町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)
(2019年2月策定)

- ▶ 省エネ機能を搭載した設備の導入
- ▶ 再生可能エネルギーの導入

他にも、公共施設が災害リスクのある場所に立地しているなど、防災面でも課題を抱えています。



公共施設を取り巻く課題のまとめ

- ・ 今後は年齢構成の転換により大幅な税収の増加は見込むことができない状況下において、平均的な公共施設の整備水準を落とすことなく更新していくことが必要です。
- ・ 今後、公共施設の整備に必要と見込まれる費用が大幅に増額すると予想される中で、施設の総量縮減が進んでおらず、耐用年数を過ぎている施設もあるため、早急に施設計画を立て、事業を進めていくことが必要です。
- ・ 防災・減災に向けた対応と、避難時における公共施設の有効な活用策を検討することが必要です。
- ・ 公共施設における温室効果ガスの総排出量を削減し、省エネ機能を搭載した設備の導入や、再生可能エネルギーの導入を検討することが必要です。

3. 公共施設再編の考え方

公共施設の現状と課題を踏まえ、本計画における基本方針を示します。なお、この基本方針は、武豊町公共施設等総合管理計画の目指す姿に即しながらも、新たに、「公共施設の再編」という考えかたを取り入れた施設計画の全体的な方針として位置付けるものとし、以下の3つを基本方針として示します。

1 安全・安心な公共施設サービスの確保

防災意識の高まり等、新たな時代ニーズに対応し、従来の公共施設サービスだけでなく、他の機能との連携による施設サービスの拡充や、保有する施設を適正に管理・更新することにより、安全・安心な公共施設サービスの提供を目指します。

2 将来世代への負担の解消

施設利用の視点から、将来世代へ引き継ぐべき公共施設機能を選定するとともに、今後発生が見込まれる修繕費を抑え、省エネ設備の導入等によるライフサイクルコストの縮減により、将来の過大な負担を解消することを目指します。

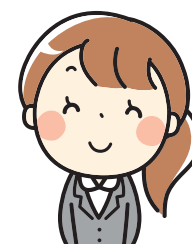
3 公共施設サービス水準の向上

町民ニーズの変化に対応し、公共施設を再編することにより、公共施設の適正な質・量を維持するとともに、民間のノウハウ・技術等を活用することにより公共施設サービスの向上を目指します。



なんで、
公共施設の再編が必要なの？

公共施設の再編は、どの施設をなくすか考えるのではなく、公共サービスの水準を落とさずに、施設の「全体量」を工夫して減らしていく、「総量の適正化」を示すことが必要です。



再編手段① 例：更新・維持のイメージ

更新・維持

施設の改修や建替え等を実施すること。
 ※建替えの際は他施設との集約や複合化等を行い、施設のサービスや機能の向上を図ります。



再編手段② 例：統合のイメージ

統合

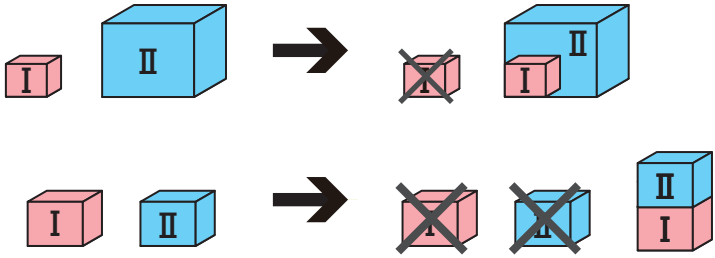
別々の施設にある同種の機能（サービス）を1つの施設にまとめること。



再編手段③ 例：複合化のイメージ

複合化

複数の異なる種類の機能（サービス）を1つの施設にまとめること。



再編手段④ 例：転用のイメージ

転用

提供している機能（サービス）をやめ、既存の建物に異なる種類の機能（サービス）を導入すること。



再編手段⑤ 例：譲渡・貸付のイメージ

譲渡・貸付

施設を民間や地域等に譲り渡す、又は貸すこと。



再編手段⑥ 例：廃止のイメージ

廃止

提供している機能（サービス）をやめて、建物を取り壊すこと。



武豊町では、大きく6つの再編手段で公共施設のあり方を考えていくよ。町に1つしかない施設が多いため、統合だけではなく、複合することを含めて検討していきます。



4. 主な施設の再編方針

施設名称	延床面積 (㎡)	短期	中期
図書館 	2,741		更新・維持 (集約)
町民会館 	8,990		
中央公民館 	3,289		
富貴小学校 	7,223		更新・維持 (集約)
武豊中学校 	12,042		
東大高保育園 	889	更新・維持	
保健センター 	1,709	更新・維持 (集約)	
役場 	7,029	更新・維持 (集約)	
総合体育館 	6,639		更新・維持 (単独)
屋内温水プール 	5,554		

長期	
更新・維持（複合化）	
更新・維持（複合化）	
更新・維持（単独）	
更新・維持（単独）	
更新・維持（単独）	
更新・維持（単独）	
更新・維持（単独）	
更新・維持（単独）	
更新・維持（単独）	

「更新・維持」の施設は、基本的に現位置において施設単独で建替え等の更新・維持を図ることを検討しますが、施設ごとに立地特性や施設がもつ性質を踏まえて検討を行い、将来的に集約^{*1}や複合化を検討することができる施設かを示します。

【更新・維持（単独）】

単独で施設を更新・維持していくことを基本とします。

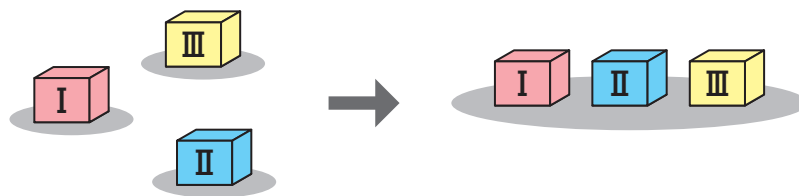
【更新・維持（複合化）】

施設の更新をする際に、他の施設の方向性も踏まえ、複合化を含めて検討します。

【更新・維持（集約）】

施設の更新をする際に、他の施設の方向性も踏まえ、集約や複合化を含めて検討します。

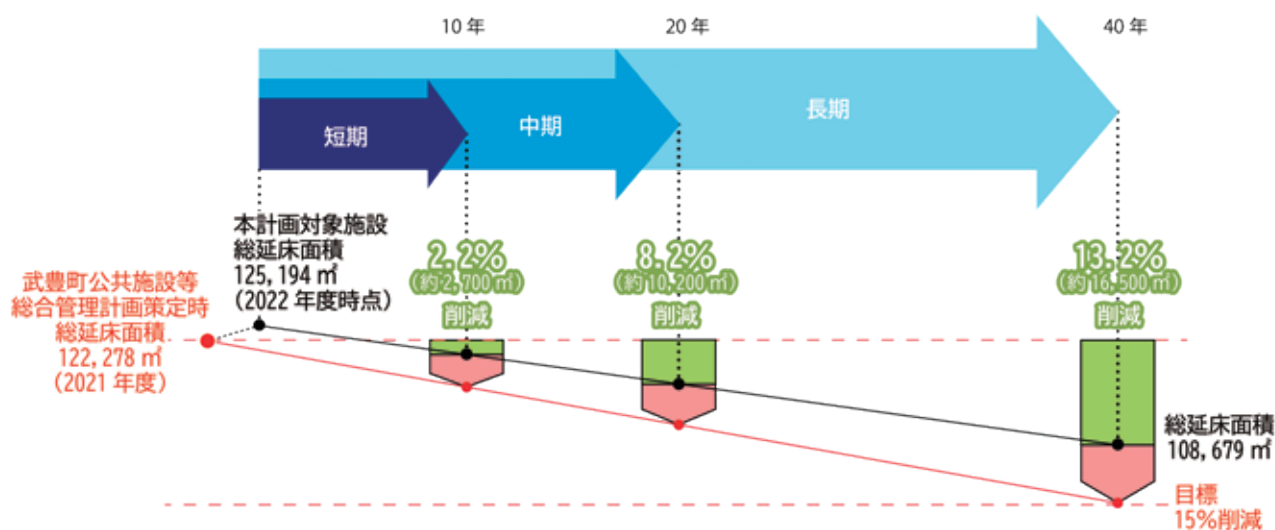
（※ 1）集約：建替えの際に他の施設と近接した立地に新たな建物を建設すること。



今後、各施設の更新時期に合わせて、施設にかかるコスト削減やサービス水準の向上を目指して、最適で具体的な再編手段を考えていきます！

再編の効果

再編方針に基づき、再編を進めていくと、計画期間内での施設の総量は、約 13.2%（総延床面積約 16,500㎡程度）の削減が見込まれます。



方針に基づき再編を進めることで総量を減らしながらも公共サービスの水準は落とさないことを目指します。

また、再編を行う時は、個別の施設ごとに適正な規模を十分に検討することで、さらなる総量の削減に努めます。



5. 再編の推進に向けて

公共施設の再編のあり方を検討するにあたっては、行政だけではなく、町民や関係団体との相互理解を深め、合意形成をしていくことが必要です。そのため、本計画を推進していくにあたってはワークショップや説明会等により町民や関係団体の意見を収集して検討を進めます。

まちの将来像である「心つながりみんなでつくるスマイルタウン」の実現に向けて、行政や町民、事業者等と協働しながら事業を進めていくことを基本とした武豊町らしい新たな公共施設の再編モデルを構築します。

